

令和8年度中小・小規模事業者DX着手支援業務
提案書評価基準

項目	評価のポイント	係数	評定点
1 実施方針	○ 業務実施に当たっての基本的な考え方や、実施する上でのポイント等が的確に押さえられており、本業務の内容・趣旨を深く理解した上で実施する意欲があるか。	1	4
2 業務内容			
(1) 広報・集客			
ア 参加者の確保・広報戦略	○ イベントの集客目標（400名以上）やモデル事例の創出目標（20者程度）の達成に向け、ターゲット層に確実にリーチできる具体的かつ効果的な広報計画となっているか。	5	20
	○ モデル事例創出と普及啓発イベント等の広報を一体的に行い、効率的に対象層へアプローチする戦略が示されているか。		
	○ 商工団体や業界団体等と連携した候補者発掘（推薦獲得）のための具体的なアプローチや連携体制が構築されているか。		
	○ 事業者の課題や意欲を把握した上で、適切な支援ルートへ振り分けるための工夫が提案されているか。		
(2) モデル事例創出			
ア プログラムの企画・運営	○ 今後想定する波及経路等を踏まえ、創出するモデル事例や成果物が提案されているか。	3	12
	○ 社内リソースに制約のある小規模事業者が参加したいと思える具体的な工夫が提案されているか。		
	○ プログラム期間中、参加事業者の意欲を維持・向上させるための具体的な工夫（交流促進、伴走者の関わり方等）が提案されているか。		
	○ プログラム終了後、事業者が継続的にDXを継続できる仕組みが含まれているか。		
イ 参加事業者の選定	○ 今後想定する波及経路や小規模事業者を優先的に支援する方針を踏まえ、業種や課題のバランス、地域性などを考慮した具体的な選定方針となっているか。	2	8
ウ 伴走支援プログラムの実施	○ ITリテラシーが低い層を対象とすることを前提に、事業者を脱落させない支援ノウハウやカリキュラム構成、実施方法・体制となっているか。	3	12
	○ 「低コスト・即効性・再現性」の観点から、適切な生成AIツール等が選定されているか。また、費用負担を抑える工夫があるか。		
エ モデル事例普及ツールの作成	○ 作成するモデル事例普及ツールは、経営指導員等が直感的に使える分かりやすいものとなっているか。	3	12
	○ 作成に当たり、商工団体や経営指導員等へのヒアリングを行い、現場の活用イメージや要望を反映させるプロセスが組み込まれているか。		
(3) 普及啓発イベントの実施			
ア イベントの企画及び運営	○ 単なる聴講に留まらず、イベント参加による「行動変容」につながる工夫（体験会、相談ブース、交流会等）や開催形式が提案されているか。	4	16
	○ ターゲット層（経営層・管理者層）の関心を持たせる魅力的なテーマ設定となっているか。		
イ 登壇者・講師の選定	○ 原則として過年度の本県モデル事業者を選定しつつ、企画意図や集客力等の観点から柔軟な提案となっているか。	3	12
	○ 登壇者との調整（資料作成支援、リハーサル等）を円滑に行う体制があるか。		

項 目	評 価 の ポ イ ン ト	係 数	評 定 点
(4) フォローアップ支援の実施			
ア フォローアップ及びリスト作成	○ アンケート等から支援候補事業者（確度の高い事業者）を選別する基準や手法が明確であるか。	3	12
	○ メールや電話、訪問等において、本質的な課題やニーズを引き出すための対話シナリオや実施体制が十分か。		
	○ 納品される「事業者リスト（カルテ）」の品質（情報の具体性、活用しやすさ等）を担保する工夫があるか。		
イ 支援候補事業者の確保	○ 支援候補事業者の確保目標数について、意欲的な数値が提案されているか。	2	8
	○ 提示された目標数値を達成するための根拠やプロセスに説得力があるか。		
3 実施体制	○ 本業務全般を実施するに当たって十分な体制となっているか。（1人の担当者に業務が偏っていないか）	2	8
4 経費	○ 経費の内訳は、業務内容に見合った適正な額となっているか。	1	4
5 スケジュール	○ 実現可能なスケジュールとなっているか。	1	4
6 その他自由提案※	○ 仕様書に記載された事項以外に、本業務の目的達成に寄与する独自の有益な提案が含まれているか。	2	8
評 定 点 合 計（140点満点）			140

※提案自体が無かった場合の採点基準点を「0」とする。

評価表

評価点	4	3	2	1	0
評価	非常に優れている	優れている	普通	劣っている	非常に劣っている

※各審査員の評価点の合計点数が満点（140点×委員数）の6割に満たない提案については候補者とししない。